

【シンポジウム(一部公募)／一般演題(口演・ポスター) ／クリティカルパス展示申込】

1. 受付期間

2010年1月6日(水)～2月26日(金) 正午締切予定

2. 申込方法

一般演題及びクリティカルパス展示の申し込みは全て第12回学術総会ホームページ(<http://www.knt.co.jp/ec/2010/12jhm/>)からのオンライン登録となります。詳細は、2009年12月中旬以降、上記ホームページをご確認ください。

3. 募集内容

- A. シンポジウム(一部公募)
- B. 一般演題(口演・ポスター)
- C. クリティカルパス展示

4. 申込規定

発表者は日本医療マネジメント学会会員に限ります。非学会員の方は入会手続きを行ってください。日本医療マネジメント学会ホームページ(<http://jhm.umin.jp/index.html>)から、入会の申し込みができます。

※当学会の公用語は「クリティカルパス」となっておりますので、演題名・本文に用いる際は公用語をご使用ください。

5. 発表形式とカテゴリ

演題の登録時には、発表を希望する形式とカテゴリを選択してください。ただし、プログラム構成の都合上、ご希望に添えない場合もございますので、予めご了承ください。最終的な発表の形式の決定については、会長にご一任ください。

6. 演題の受領と発表通知

演題受領確認は、演題登録時に入力されたE-mailアドレスに受領通知が届きます。または、演題「確認・修正」画面にて受付番号、パスワードを入力の上ご確認ください。

7. 演題採否と通知

演題の採否は、お申し込み頂いた抄録と演題名をもとに会長にご一任ください。

採否の通知は、2010年4月上旬頃にE-mailにてご連絡致します。また、第12回学術総会ホームページ(<http://www.knt.co.jp/ec/2010/12jhm/>)上にも結果を掲載致します。

※応募の詳細は、日本医療マネジメント学会雑誌10巻3号及び第12回日本医療マネジメント学会学術総会ホームページ(下記記載)を参照ください。

第12回日本医療マネジメント学会学術総会ホームページ
<http://www.knt.co.jp/ec/2010/12jhm/>

開催報告 分科会

日本医療マネジメント学会2009年度第1回 クリティカルパス実践セミナーin札幌 ークリティカルパスの作成とバリエーション分析ー

青森県立中央病院整形外科 伊藤淳二



グループワーク風景

2009年8月29日(土)・30日(日)の2日間、第1回クリティカルパス実践セミナーin札幌が開催され、参加させていただきました。

朝晩は秋といえるような心地よい気候の中、会場のKKR札幌医療センター

の3階会議室は定員50名を大きく上回る80名の熱気があふれておりました。初日は熊本医療センターの野村一俊先生と清川哲志先生にクリティカルパスの基本・作成のポイント・達成目標の考え方について御講演いただいたあと、10名ごとの8チームに分かれ実際にクリティカルパスを作成しました。この日初めて顔を合わせた10名が役割を分担し、先ほどの講義内容を思い出し、講師の先生方に御助言をいただきながら約2時間半でクリティカルパスを作成し、各班のクリティカルパスを発表し質疑応答、コメントをいただき、という流れでした。参加者それぞれクリティカルパスへの携わりかたに違いはあったものの、講義で教えてもらったことを軸にクリティカルパスを作成していく作業は、まさに一丸となって進み、さきほど初めて会った者同士とは思えないチームワークでした。発表してみるといろいろなコメントを各方面からいただき、クリティカルパス作成の奥の深さを感じました。

2日目は福井総合病院の勝尾信一先生によるバリエーション分析とクリティカルパスの見直しについての御講演後、用意された症例の入院経過からバリエーションを分析し発表する作業を行いました。分析方式は各班にまかされましたが、偶然にもオールバリエーション方式とゲートウェイ方式が半々で、実際に同じ症例を別々の方法で分析したことでそれぞれの利点がよくわかりました。さらに、このバリエーション分析を生かしてクリティカルパスを進化させることが診療の質を向上させる、ということを実感しました。

この2日間は非常に内容の濃いものであり、クリティカルパスの作成から分析、PDCAサイクルを回すことの重要性が理解できました。終了時には心地よい疲れと充実感があり、参加者も多くの知識と情報を手土産に解散となりました。

最後にセミナーの講師の先生方、会場をご提供いただき